

「平熱が違う」 北山 順

ブラウスの飾りテープに野分立つ

縹雲大きく旅費の浮きそうな

賢治忌の臭みを消されたるジビエ

アキレス腱に幾度も触れる鴉日和

其処此処で着替えていたる秋祭

後輩ができたと笑う草の花

アレンジの酷き戯曲を着ぶくれて

義士の日のデイベアよりふとノイズ

唇は歪なパーツ雪催

遠火事や話術巧みな人憎む

絨毯に描く人差指の歌

紫のマフラーを振り応援す

色も形も任され母の日記買う

皆の初笑いとなりて眠られず

獅子頭町の境を折り返す

神主がくれた蜜柑を持って遊ぶ

冬林檎そもそも平熱が違う

Y軸の果てなく豆を打ちにけり

葉牡丹や腰反り返るほど笑う

てらてらと照りたる涎春の土

孕鳥くだらぬ二択迫られる

十数え終え紫雲英田を去りにけり

掌の蚕実習最終日

霾やコロポックルの服を縫う

荻窪の朧へ水を買い求む

清明や連なり確かなる手足

紫はゆっくり褪せる春の雷

ダブルスのぽこんぽこんと陽炎える

奥付の日付は未来寺山忌

制服の女子リフティングせし五月

たかなや園児らの顔ぼかされる

転校生を冷やした胡瓜にて誘う

夾竹桃割れども赤は濃ゆき色

子と父を木々の遮る貸ボート

コンセプト通り海月の癒す部屋

十葉の一際低く咲かんとす

友の子と同じ名の薔薇だと思う

短夜のラジオネームにある自虐

居候麦茶を沸かし始めたる

日雷モツ煮をはさむコッペパン

逆転のナイターおむつ持ち上がる

美容師が戻ってこない大夕焼

引き摺られたがる子犬や夏の果

車掌役演じる少女広島忌

炭酸に噎せる広東語や残暑

墓参黒飴二つ濡れており

白芙蓉ときに前任者の気配

後ろ手にゆっくり回る踊りかな

鹿よぎる夜や製本の美しき

ガス台が傾いている流れ星